

2022年11月号

文化財再発見コーナー

たかおか

おん こ ち しん
温故知新

五十嵐篤好著『地方新器測量法』

五十嵐篤好(1794~1861)は多方面に活躍した郷土の偉人です。篤好は現在の高岡市内島で代々「十村」(数十ヶ村の行政を担当した農民代官)を務めた旧家の9代目です。幼時より算学・測量家の石黒信由に学び、19歳で師と共に『筆算々法』を出版しました。16歳で父の十村役を代行し、舟倉野開拓(富山市大沢野)などに尽力しました。また文系の学者でもあり、国学・和歌、言霊学、



五十嵐篤好肖像画(博物館蔵)

書道、農政学や地誌、紀行文・随筆などの幅広い分野にわたる著作は約100冊あります。5,700余首もの歌集『ふすしのや詠草』はその代表作で、近世越中第一の歌人・国学者と評価されています。

『地方新器測量法』(1857年)は測量の基本や篤好自ら考案した測量器具を図解入りで詳しく解説しており、測量術の教を乞う人が後を絶たず、手を取って教える代わりとして著したとされます。当館所蔵の県指定文化財「清都家測量器具等関係資料」(97点)の一つです。

(仁ヶ竹主幹)

問合先 博物館

TEL 20-1572



『地方新器測量法』(博物館蔵)